

令和元年度 津幡町立津幡中学校 学校評価 <最終報告>

R2. 2月

1回答…より肯定的回答 1+2回答…肯定的回答 ◎成果 ▼課題

	重点事項	具体的取組	内容	現 状	評 価 の 観 点 【 】生徒、保護者、教職員アンケート	達成度判断基準 (1回答・1+2回答)	判 定				後期学校評価から (前期との比較等)
							1	%	1+2	%	
1	学力向上と道徳教育の充実	(1)授業力や学級経営力を高める取組	①授業力向上	◎教職員の意識は高まっている。しかし、学力調査結果の数値的向上には繋がっていない。	【生】授業がわかりやすい。 【保】わが子は授業がわかりやすいといっている 【教】わかりやすい授業を行うよう工夫し、学力向上に努めている。	A 40%・85%以上 B 35%・80%以上 C 30%・70%以上 D 30%・70%未満	A	55	A	91	▼教員の意識が79%から57%に下降した。次年度からの研究の方向性を共通理解し実践を推進していきたい。(2/17指導主事要請訪問)
			②ICT機器等の活用 ★町共通	◎積極的な活用に努めなければならない現状である。	【教】ICT(大型TVやタブレット)を活用した授業を実施している。	A 50%・80%以上 B 40%・70%以上 C 30%・60%以上 D 30%・60%未満	B	41	D	45	
		(2)学力向上ロードマップに基づく取組の推進	①教科部会の充実	◎ロードマップに対する意識は低い。	【教】教科部会に意欲的に参加している。 【教】教科部会の内容が充実している。	A 60%・90%以上 B 50%・80%以上 C 40%・70%以上 D 40%・70%未満	C	46	A	93	◎教科部会への参加意欲は88%→93%と高まっている。引き続き、教科部会の強化を基盤とした学力向上対策を進めていきたい。
			②津幡中学び合いスタイル	◎津幡中学び合いスタイルは徐々に定着し始めている。	【生】生徒の間で、話し合い活動や学び合い活動をよく行っている。 【教】学び合いを意識した授業実践に努めている。	A 55%・90%以上 B 50%・80%以上 C 40%・70%以上 D 40%・70%未満	C	49	B	87	
			③家庭学習の充実	◎メディア依存の生徒が多く、家庭学習が習慣となっていない。	【生】家庭学習を毎日している。 【生】自分で計画を立てて勉強している。	A 60%・90%以上 B 50%・80%以上 C 40%・70%以上 D 40%・70%未満	C	46	B	83	
		(3)道徳授業の充実	①学校全体で取り組む道徳実践	◎教科化に伴う教職員の意識を高めていく必要がある。	【生】道徳の授業が好きだ。 【教】道徳の授業内容を工夫し、積極的な授業実践に努めている。	A 40%・80%以上 B 30%・70%以上 C 20%・60%以上 D 20%・60%未満	B	33	B	77	◎道徳教科化のスタート年である。授業の質はともかく、教員の意識だけは100%となった。
2	生徒指導の充実	(1)津中生の「4つの力」を高める指導の徹底 ＜あいさつ、清掃、校歌、思いやり＞	①あいさつの定着	◎生徒の意識は低く、粘り強く指導していかなければならない。(1回答の生徒の低さ)	【生】家庭や学校でしっかりあいさつしている。 【保】わが子は、家庭や学校でしっかりあいさつしている。 【教】家庭や学校でしっかりあいさつすることを指導している。	A 80%・95%以上 B 70%・90%以上 C 60%・85%以上 D 60%・85%未満	D	59	A	95	◎二学期以降、校区内6小学校と連携して「あいさつ運動」に取り組んだことから、生徒の意識はA(95%)と高まった。
			②無言清掃の徹底	◎無言清掃にはほど遠い現状にある。(1回答の生徒の低さ)	【生】清掃には無言で真面目に取り組んでいる。 【教】清掃を無言で真面目に行うよう指導している。	A 50%・90%以上 B 40%・80%以上 C 30%・70%以上 D 30%・70%未満	A	53	A	92	
			③大きな校歌	◎指導の工夫が望まれる。(本年度より音楽科が事前指導実施) 1回答の生徒・教職員の低さ	【生】校歌は大きな声で歌うようにしている。 【教】集会などで校歌を大きな声で歌うよう指導している。	A 50%・90%以上 B 40%・80%以上 C 30%・70%以上 D 30%・70%未満	D	23	C	74	
							A	53	B	87	▼毎月の集会で根気強く継続指導を行っていきかない。

令和元年度 津幡町立津幡中学校 学校評価 <最終報告>

R2. 2月

1回答…より肯定的回答 1+2回答…肯定的回答 ◎成果 ▼課題

	重点事項	具体的取組	内容	現 状	評 価 の 観 点 【 】生徒、保護者、教職員アンケート	達成度判断基準 (1回答・1+2回答)	判 定				後期学校評価から (前期との比較等)
							1	%	1+2	%	
2	生徒指導の充実	(2)積極的な生徒指導の推進	①生徒指導の機能を生かした指導(人間関係づくり)	◎楽しくないと回答している生徒への心的ケアが望まれる。楽しいと言い切る生徒割合(1回答)が50%を切っている。	【生】学校へ行くのが楽しい 【生】学級は居心地がよい 【保】わが子は学校へ行くのを楽しみにしている。 【教】生徒間や教師との人間関係が温かなものになるよう、学年・学級の充実に努めている。	A 60%・95%以上 B 50%・90%以上 C 40%・85%以上 D 40%・85%未満	B B C B	55 53 37 57	B B C A	90 93 89 97	◎大きな変化はないが、引き続き、計画的にエンカウンター等を実施し、温かな人間関係づくりに力を注いでいきたい。
			②基本的生活習慣の定着	◎思いやりの心については下降気味である。継続指導が必要である。	【生】友だちには思いやりの心で接している。 【保】わが子は友だちと仲良く学校生活を送っている。 【教】思いやりの心で友だちと接するよう指導している。	A 60%・95%以上 B 50%・90%以上 C 40%・85%以上 D 40%・85%未満	A B A	66 52 81	A B A	98 94 100	◎あらゆる教育活動を通して、思いやりの心の育成に努めていきたい。人権意識の低い生徒たちへの粘り強い指導を大切に取り組みたい。
		(3)問題行動等への迅速で適切な対応	①危機管理意識	◎教職員の危機管理意識は高くない。	【保】学校は相談や問い合わせに適切に応じてくれる。 【教】報告・連絡・相談が有効に機能し、情報が共有されている。	A 60%・90%以上 B 50%・80%以上 C 40%・70%以上 D 40%・70%未満	D D	32 24	A B	93 83	◎保護者の肯定的回答は比較的高い。常に危機管理意識を高く持続し対応していきたい。
		(4)教育相談の充実	①いじめの根絶	◎学校生活指導員(新規)を効果的に活用したい。	【生】いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。 【保】学校におけるいじめの未然防止や早期発見のための取組が伝わってくる。	A 90%・95%以上 B 80%・90%以上 C 70%・85%以上 D 70%・85%未満	B D	82 20	A D	97 79	▼いじめはいけないことと言い切れる生徒を増やしたい。 ▼いじめ防止等の取組が保護者に十分伝わっていない。今後の課題である。
3	信頼される学校づくり	(1)積極的な情報発信と学校公開	①たより、HPの充実	◎ホームページの更新はきめ細かく行われている。	【保】学校は子どもや学校の情報提供を適切に行っている。 【保】学校からの情報(たより、HPなど)をよく見ている。	A 70%・90%以上 B 60%・80%以上 C 50%・70%以上 D 50%・70%未満	D D	29 25	A C	92 79	◎保護者の肯定的回答は比較的高い。
		(2)学校評価の充実	①アンケート結果の活用	◎より効果的に活用していく必要がある。	【教】学校評価アンケート等の結果を参考にし、改善に努めている。	A 70%・90%以上 B 60%・80%以上 C 50%・70%以上 D 50%・70%未満	C	32	A	96	◎学校教育活動を診断する一つの指標として、検証等に効果的に活用していきたい。
		(3)保護者・地域との連携	①学校行事への積極的参加	◎多くの保護者の参加を目指し、これまで以上に創意工夫を凝らす必要がある。	【保】学校行事や育友会行事に参加している。	A 60%・70%以上 B 50%・60%以上 C 40%・50%以上 D 40%・50%未満	D	10	D	45	▼保護者にとって魅力のある学校づくりを進める上で、高めていきたい項目である。育友会の大きな検討課題である。
		(4)小中連携の推進	①小中一貫した英語教育の充実 ★町共通	◎小学校への積極的な授業参観に努める必要がある。	【教】小学校との情報交換や連携・交流に努めている。(小学校の授業参観(英語)等含む) ※英語科教員の小学校訪問回数(年間)	A 年3回以上訪問 B 年2回訪問参観 C 年1回訪問参観	A		A		◎次年度以降も小学校の英語授業を参観する機会を多く取り入れたい。
			②英語検定受験の推奨	◎英語検定受験者及び3級以上の取得者数が少ない。	4技能を3年間で系統的に育成できているかの指標の一つとして、3年生時の英検3級以上の取得者数を追跡調査していく。	A 3級以上 30%以上 B 3級以上 20%以上 C 3級以上 15%以上 D 3級以上 15%未満	B		B		◎受験者数を増やす手立てが必要。 R1:3級25.6%(49人)、準2級2%(4人) H30:3級17.2%(36人)、準2級1.9%(4人) H29:3級13.3%(29人)、準2級1.4%(3人)

令和元年度 津幡町立津幡中学校 学校評価 <最終報告>

R2. 2月

1回答…より肯定的回答 1+2回答…肯定的回答 ◎成果 ▼課題

	重点事項	具体的取組	内容	現 状	評 価 の 観 点 【 】生徒、保護者、教職員アンケート	達成度判断基準 (1回答・1+2回答)	判 定				後期学校評価から (前期との比較等)
							1	%	1+2	%	
4	教員の人材育成	(1)若プロの計画的実践	①若プロ	◎ランチミーティング等を有効に活用し、計画的に進めたい。	【教】ミニ研修会の内容が充実している。	A 70%・90%以上 B 60%・80%以上 C 50%・70%以上 D 50%・70%未満	D	9	A	91	◎引き続き、主幹教諭を中心として、全教職員を巻き込んだ若プロ研修会を企画する必要がある。
		(2)ミドルリーダーの育成	①ML研	◎主任会等を通して力を高めさせたい。	【教】様々な取組について共通理解しながら進めるよう努めている。	A 70%・90%以上 B 60%・80%以上 C 50%・70%以上 D 50%・70%未満	D	27	A	93	▼肯定回答の1回答が高い学校組織づくりを進めたい。職員の意識を高めなければならない。
		(3)企画力・提案力の育成	①学校経営ビジョンの浸透	◎校長の学校経営ビジョンを意識した教育実践となるよう働きかけたい。	【教】「魅力のある学校づくり」を意識した教育実践に努めることができた。	A 70%・90%以上 B 60%・80%以上 C 50%・70%以上 D 50%・70%未満	D	35	A	94	◎教職員個々の面談シート目標の達成度と合致している。
5	教職員多忙化改善に向けた取組の推進 ★町共通	(1)町の方針に基づいた取組の推進	①時間外勤務の縮減	◎昨年度の時間外平均 前期…73時間 後期…63時間	【教】時間外勤務時間の平均時間が津幡町の目標に達している。	A 平均60時間以下 B 平均70時間以下 C 平均80時間以下	前期 B		後期 A		前期平均(4～9月)…65. 8時間 後期平均(10～1月)…57. 8時間
			②計画的な部活動休養日設定	◎概ね良好な状態である。	【教】部活動で週2日の休養日をとることができた。	A 計画的にできた B 概ね達成できた C よくできなかった	A	86	A	100	◎概ね良好な運営である。年間52日の土日休養日も確保できる状態にある。
			③最終退校時間の遵守	◎退校時間が遅い教職員の固定化が見られる。	【教】80時間超えの教職員の割合。	A 20%未満 B 30%未満 C 40%未満 D 40%以上	前期 C		後期 B		33. 2%(4～1月) 前期平均(4～9月)…38. 2% 後期平均(10～1月)…25. 8%
		(2)業務の効率化を図るための取組の推進	①校務支援システムの運用	◎教職員の意識は高まっている。	【教】分業作業を効率的に進めるよう努めた。	A 50%・90%以上 B 45%・85%以上 C 40%・80%以上 D 40%・80%未満	C	40	A	90	▼引き続き、効率化を目指して取組を推進させなければならない。
			②共有サーバーの活用	◎サーバーの整理を図る必要がある。	【教】サーバー内の教材資料が活用しやすい。	A 50%・90%以上 B 45%・85%以上 C 40%・80%以上 D 40%・80%未満	D	0	D	44	▼今年度から導入された校務支援システムを含め、整理・活用を計画的に進めていきたい。
			③スクールサポートスタッフの有効活用	◎有効に活用できているとは言えない。	【教】スクール・サポート・スタッフを活用しやすい。	A 50%・90%以上 B 45%・85%以上 C 40%・80%以上 D 40%・80%未満	D	18	D	50	▼様々なデータ集計を依頼できるSSSが望まれる。